

米 新刊図書

馬場 知己 著

東京 2000 万都市の改造計画

著者は、最近まで国鉄建築部門の最高責任者として活躍してこられたが、職務がら個々の交通計画は存在しても全体的都市計画が立ち遅れていることを痛感して、将来の東京の姿に対して一つの構想を提案するに至ったものである。

内容は 6 章に分れ、序章に将来の都市計画の構成とそれに対する基本的態度、2 章に“水”，3 章に“人の動き”，4 章には“物の動き”，5 章に“住宅”，そして終章に結論という構成となっている。

前提としては、人口の大都市、特に東京圏への集中は必然的なもので、東京の将来人口は区部とその周辺を含めて約 2000 万人と考え、それに対処できる計画をたてなければならない、ということから検討がすすめられている。

水については、比較的簡潔に東京への広域的給水計画の紹介と検討がなされ、資源的には問題ないという結論である。

人の動き、物の動き、住宅の各章はこの本の中心になる部分で、それぞれ関連した内容であり、動きをもっとも少なく能率よくするためには、交通路の機能の純化と整理を行ない、むだな動きを除くことが必要で、まず東

京湾の横断交通路を設け、工業生産施設を東京湾周辺に誘導するとともに、一方では市街地の再開発を行なって、市民の居住空間を都心に近く大量に供給すべきであるとしており、その有効な手段として技術の進歩、特に超高層建築の可能性を導入すべきであると述べている。そして、計画を実現する手段としては、公共用地の高度利用が提案されている。著者は、その例として国鉄用地の高度利用を取り上げ、諸外国の実例を引用しながら、それを他の公共用地の高度利用におよぼし、それにとまって他の再開発用地を生み出し、つぎつぎにそれらを波及させ、都心部に近い所には、スーパーブロックによる超高層住宅、それよりやや遠い所には、中高層住宅を建設することによって、現在のほぼ市街地の広がり以内に、将来の 2000 万の人口を収容することができ、しかも、それを容易に比較的安い価格で提供することができること、そして住宅の質も機能もまた環境も快適なものとするのが可能であると述べている。

また、さらには公共用地の高度利用からはじまるこの再開発構想は、関係諸方面の一致した推進、さらには、国家的方針として強力に進めていかなければ実現は不可能であり、その実施に当っては、民間の資金の導入も積極的にはかわっていかねばならないと述べられている。

結論としては、東京湾横断交通路線の建設と都内住宅高層化を進めることであるが、またそれを強力にコントロールする計画の推進とリーダーシップの確立が必要であると力説されている。

以上がこの本の内容の主題であるが、国鉄用地の高度利用計画ということから考え方をすすめたきわめてユニークな内容をもつ提案であり、多くの都市計画関係者にとってまことに強い印象を与える本であるといえよう。

[1]

鹿島出版会刊，A5判・240 ページ，定価 1500 円

新 刊 目 録

編著訳者名	書 名	判 型	ページ数	出 版 社	定価	記 事
地下街誌刊行会	さんちかタウン 三宮地下街 企画から完成まで	A 5	228	(地下街誌) 刊行会	1000	地下街は時代の要求にこたえて近時続々と建設されているが、本建設事業に関する出版物は非常に少なく、その刊行が望まれていた。本書は企画から開業まで、また道路管理、施工、商店経営の各分野にわたって各分野の専門家を執筆者に迎えて編まれた。ただし、その道の専門家を読者対象の全部とは考えていないので、工事編等純技術的なものは常識的な範囲内に止めてある。ユニークな美しい装本である。
共同住宅編集委員会編	共同住宅	A 4	600	技 報 堂	7500	団地という新語が生まれたが、耐火構造の共同住宅形式が採用され宅地の高度利用が計られてから 18 年を経た。大都市の勤労者にとって非常になじみ深いものとなったこの種住宅の発展の経過と現況を日本住宅公団の建設実績等を中心に編まれたのが本書である。都市計画、建築設計、団地計画等の専門家にとって、大塚示峻に富んだ図書といえる大冊である。